シンポジウム

クラゲ類の大量発生とそれらを巡る生態学・生化学・利用学

上 真一¹ (広大院生物圏科), 上野俊士郎² (水大校),
 広海十郎³ (日大生物資源), 塩見一雄⁴ (海洋大)

Jellyfish blooms -ecology, biochemistry and food science for utilization

SHIN-ICHI UYE,¹ SHUNSHIRO UENO,² JURO HIROMI³ AND KAZUO SHIOMI⁴

¹Graduate School of Biosphere Sciences, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima, Hiroshima 739-8528, ²National Fisheries University, Shimonoseki, Yamaguchi 759-6595, ³College of Bioresource Sciences, Nihon University, Fujisawa, Kanagawa 252-8510, ⁴Tokyo University of Marine Science and Technology, Tokyo 108-8477, Japan

はじめに

日本ならびに海外の沿岸域に広く分布するミズクラゲなどのクラゲ類の大量発生(出現)が水産業や電力産業等に与える被害は甚大である。このようなことから、クラゲ類の大量発生機構の解明や発生の早期予知・予測に向けた研究が産業界から強く望まれている。今後はこうした研究もさることながら、現に大量にいるクラゲ類を新たな生物資源として捉え、これらの有効利用のあり方を探ることもまた必要であろう。

このような視点から、クラゲ類による被害状況を整理すると同時に分布生態学や体成分などの生化学や食品利用学に関する研究成果を取りまとめ、さらに問題点や今後の課題を整理し、もって今後の研究に資するために本シンポジウムを以下のプログラムにしたがって開催した。

〈プログラム〉

クラゲ類の大量発生とそれらを巡る 生態学・生化学・利用学

企画責任者：上 真一 (広大院生物圏科)・上野俊士郎
 (水大校)・広海十郎 (日大生物資源)・塩
 見一雄 (海洋大)

開会の挨拶 上 真一 (広大院生物圏科)

I. クラゲ類の大量発生とその影響

座長 広海十郎 (日大生物資源)

1. わが国で大量発生するクラゲの種類

上野俊士郎 (水大校)

2. 瀬戸内海 上 真一 (広大院生物圏科)

3. 日本海 安田 徹 (元福井裁漁セ)

4. エチゼンクラゲによる漁業被害に対する取り組み 本多直人 (水研セ水工研)

5. わが国の電力産業における被害状況

川辺允志 (栗田エンジニアリング)

II. クラゲ類の生態学

座長 上野俊士郎 (水大校)

1. 生活史と再生産

三宅裕志 (新江ノ島水族館)

2. 摂餌と成長 石井晴人 (海洋大)

3. 魚類との相互関係

広海十郎 (日大生物資源)

4. 音響学的手法の生態学的研究への応用

稲垣 正 (東大海洋研)

III. クラゲ類の生化学・利用学

座長 塩見一雄 (海洋大)

1. 体成分とその利用学

内田直行 (日大生物資源)

2. クラゲ刺胞毒とその利用

永井宏史 (海洋大)

3. ミズクラゲの食品利用

猿渡 実 (大分海水研セ)

4. エチゼンクラゲの食品利用学

岡崎恵美子 (水研セ中央水研)

IV 総合討論座長 上 真一 (広大院生物圏科)

上野俊士郎 (水大校)

広海十郎 (日大生物資源)

塩見一雄 (海洋大)

閉会の挨拶

塩見一雄 (海洋大)